

研究資料

佛日庵公物目録

去春、北條時宗の六百五十年忌に當り、圓覺寺に於いてその記念事業として同寺藏佛日庵公物目録原本の複舊と複製本の印行が成された。

佛日庵は言ふまでもなく圓覺寺創建の檀那たる時宗の守塔であり、その緣故に因むでの事業はその目録の内容の史料として價值高きを、特に美術史的側面にとりて貴重なるを訓へた。

奥書に據つてこの目録が貞治二年四月（一三六三）に書かれ同五月、同十月、貞治四年（一三六五）正月に校合の加點せられ、猶ほ貞治四年六月の註記を加筆の年代の最下限として見出さるゝ處である。而してこの内容の品目の一部は鎌倉時代の大體よりの傳來品と覺しく、元弘の亂を経て即ち奥書の時代に傳存し、或は一部は當時に傳來し、更に一部は大陸の影響の下に製作せられたものと推し得る。

かくて當時の禪林に存在した繪畫、工藝の如何を知り、寺塔の建築と合せ考へて、その生活に即した造型の全般を知りうる契機を成す。

殆んど同時代に同ロカアルに義堂周信の空華集及び空華日工集の記述あるは、参照文獻として役立つであらう。

品目中、果して現存する遺品ありやは、今後に俟つべき問題である。

今、この目録を活字化して、その内容をこの誌上に紹介し得るに當つて、原本の形制に努めて忠實ならんとするものであり、同時に之を成すに諸種の便宜を許されたる圓覺寺各緇位に謝するものである。

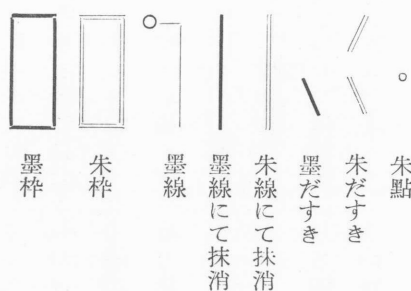
品目或は奥書の人名の考證を缺いて上梓するは、甚だ杜撰の譏りを免れない。他日を期し、更に冀んば江湖の垂教に仰いで十分な解説を成したい。

形制は卷子本一卷、紙繼十三枚、法量は堅三〇・二、極長さ左記の如くである。

見返	糶	25.5
第1紙		37.4
2		33.9
3		35.0
4		48.4
5		13.1
6		41.0
7		7.0
8		48.4
9		48.2
10		48.5
11		44.4
12		10.3
13		28.6

天地に罫線を劃して、品目を墨書し、朱點、朱のたすぎ、墨のたすぎにて校合し、註は墨書時に朱書を交へる。その墨書は幾人の筆か不明であるが、特に明な一筆に關しては頭註に異筆とし、又朱に二種明暗を識別しうるが、その區別は右だすぎ明、左だすぎ暗である。左にこの活字化の諸標を掲げる。かゝる諸點及び註の相互關係は、今遽かに斷言し得ず、考證に俟つ事を許されたい。

（熊谷）



(第一紙)

佛日庵公物目錄

一諸祖頂相

〇大惠 自贊

〇虛堂 無學贊

〇佛照 自贊

〇寂窓(一) 佛源贊

〇妙峰 大川贊

〇佛鑑 希叟贊

〇晦岩 石帆贊

〇瞎堂 自贊

〇斷橋 自贊

〇貞治二十二年彌三郎富田々所子息當郷内
松源 自贊
依押領爲祕計大林方へ遺之訖

〇無門 自贊

〇大惠 無準贊

〇蜜庵 自贊

〇偃谿 自贊

〇偃谿 佛光贊

〇智覺 希叟贊

〇癡絕 自贊

〇虛堂 石帆贊

〇明覺 希叟贊

〇大惠 大覺贊

〇物初 自贊

〇大愚 周一章贊

〇智廓 佛源贊

〇孤雲 自贊

(第二紙)

〇圓悟 自贊

〇雲巢 自贊

〇蜜庵 北磻

〇大覺 自贊

〇蒙庵 自贊

〇斷溪 佛源贊

〇宏智 自贊

〇五祖演 大通贊

〇宏智 自贊

〇別山 自贊

〇佛照 自贊

〇趙州 大覺贊

〇〇〇 笑翁 佛源贊

〇〇〇 大通 自贊

。以上三十九鋪

一 應化賢聖

(第三紙)

〇〇〇 嚴陽懶瓚一對 癡絕贊

〇〇〇 布袋一鋪 大惠贊

〇〇〇 六祖一鋪 兀庵贊

〇〇〇 毗砂門一鋪 後日被添之

(軸字書起シ)

一 繪 分

(依越前以下別筆)

〇〇〇 墨牛二鋪 美光章筆

〇〇〇 異種菊花二鋪

〇〇〇 四季四鋪

〇〇〇 猿二鋪 牧溪 佛源贊

〇〇〇 猿二鋪 一山贊

〇〇〇 坐禪猿一鋪 牧溪 虛堂贊

(第四紙)

〇〇〇 龍虎二鋪 徽宗皇帝 贊御製

〇〇〇 蘭二鋪 趙幹

〇〇〇 竹繪一對

一 墨蹟

唐分

〇〇〇 大惠 悟明贊

〇〇〇 衆大道一鋪 癡絕贊
〇〇〇 三祖禪師一鋪 佛光贊
〇〇〇 四祖五祖一鋪 天目贊
〇〇〇 君片混一圖一軸

〇〇〇 墨梅四鋪 依越前山本庄事 七條殿送之貞治四二
〇〇〇 藕花二鋪
〇〇〇 桃花梅竹二鋪 一山贊
〇〇〇 墨竹二鋪 李孤峯筆
〇〇〇 蘊雀二鋪
〇〇〇 蘆鴈二鋪 彩色
〇〇〇 許由仲夫二鋪 一山贊

〇〇〇 蘆鴈二鋪 徐正達筆 彩色
〇〇〇 龍一鋪 玄外
〇〇〇 鷹一對
〇〇〇 山水一對
貞治二十二廿七富田庄田所子息彌三郎當鄉内依押領爲祓計土岐宮内少輔殿方へ遺之訖

〇〇〇 蜜庵法語一

〇〇〇 王逸老書四 李白詩

〇〇〇 運庵真跡 雲洞收 (後?)

〇〇〇 虛堂真跡

〇〇〇 天目真跡

〇〇〇 天目真跡 石帆收 (後?)

〇〇〇 卽之一帖

日本分

〇〇〇 西圃真跡十二鋪

〇〇〇 宗派二卷

被進方々佛日庵繪以下事

〇〇〇 四聖繪四鋪 御贊 魚籃 馬郎婦 柳氏女 靈照女

〇〇〇 松猿繪一對 牧溪

(第五紙)

堆朱一對

(翁字珠消上書起シ)

觀應三年四月十八日長壽寺入御之時依御引

出物不足被進副之別帶在之 當任 檢翁 和尚

樹頭繪一對 有鷄牧溪

將軍家彼鷄繪御所望候間本尊觀音相副

被進之御書在之 貞治元年十一月廿日

(貞治以下別筆)

(第六紙)

圓盆一對 犀皮大

井臺 花梨木 銀覆輪

鎌倉御前入御之時御引出物 貞治元年十一月廿九日

〇〇〇 石帆真蹟一 與孤舟法語

〇〇〇 蘿月真跡

〇〇〇 北磻真跡

〇〇〇 濟書記真跡

〇〇〇 別峰真跡

〇〇〇 宏智法語一

〇〇〇 無準墨蹟

〇〇〇 一山真跡四鋪

〇〇〇 天童天寧化疏二軸

寒山拾得一對 虛堂贊

犀皮圖盆一對 小

觀音

湯盞一對 密變

廬廬一對 同執事與州被引之畢

山水一對 同執事與州被引之畢
花鳥四鋪 彩色 虎二鋪 李迦筆 康安二六月七日 崔白筆
下別筆 延文四十一月 廿一日 廬廬一對 彩色

爲尾州兩庄沙汰土岐光錄方被進之返事在之
三ヶ度被遣之

莫魚二鋪 同舍弟司農方被進之返事在之 康安二六月七日

猫兒二鋪 大林和尚之被遣之

蘆鷹二鋪 古銅花瓶一對 香呂一ヶ 大喜和尚代

千葉介招請之時被引之畢

胡銅花瓶一双 同香爐一ヶ 準人正引出物 貞治四六月 不聞和尚代

花梨木茶桶一對 犀皮小盆一ヶ 依田入道引出物 同日 不聞和尚代

(第七紙)

一法衣箱篋二合内 一箱者先日粉失歟

一箱

大惠袈裟 吉田殿御進

宏智袈裟 東福寺進

掛絡一帖

一細々具足 在寶藏

青磁花瓶一具

同香呂一 此一具者觀音堂渡之

(註具) 字朱書

檀花瓶三對 此内一對日輪寺殿前在之

(香爐左合字朱書)

古銅花瓶香呂三具

香爐五 合 雲稅二大小 堆朱一 江春一 桂漿一

鎌倉御所被進之

(鐵倉御書) 所以朱

竹絲一對

桂漿一對

犀皮一對

貞治二十二廿七依沙汰祕計土岐宮内少輔殿方遣之了

藥合五對

(上相以下別筆)

鑄金一對

堆漆一對

上相左馬助殿方一ヶ遣之

桂漿藥合一對 貞治二十二年廿七富田々所子息彌三郎當番依押領爲沙汰祕計。宮内少輔方遺之訖。

桂漿藥合一大鎌倉御前被進之

貞治二十二依沙汰祕計光祿方遺之訖

堆朱四屬印籠一層

圓盆四對犀皮四對 現在大少一對

方盤四竹絲一 補金一

建盞一。同臺一對一對

青磁湯盞臺二對 一對無帶

湯盞二對饒州一對

白鐵茶桶二對 此内一對依田方遺之

花梨木茶桶一對 依田入道引出物

白鐵茶甌一對 此内一ヶ者山門疏軸用之

饒州湯瓶一

銅蠟燭臺二對 此内一隻失云々

白鐵鉢一

馬惱鉢一大

鍮石毬爐一 在臺

瑠璃燈爐二 在同御器二

鏡一鉢 東勝寺千峯新施入

花梨木鏡臺一

硯三面 同硯臺硯龜蛇

陀龍筆架一 古銅

山形筆架一 古銅

白鐵筆架一

水入一 古銅

筆二管 玳瑁一 透籠一

古銅押子一

烏石押子二對 牛羊

平江兒二

法衣二帖

坐具二

氈二枚

打引

銚子提具 鱗形

唐筵六枚

一品經箱一合

五百羅漢箱一合

十王箱一合

古銅大花瓶并香呂

羅漢十六補

一三所佛前御具足 承仕預之本堂分

青磁花瓶香呂一對

磬一。鈴一

青磁花瓶香呂一對

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

片香一大

琉璃一。藤一古

枕二

斑靴一足

手巾一帳

水引

花梨木靠椅一脚 并脚踏

哲首坐進葛一合 并鈎一

十六羅漢箱一合 小

十八羅漢箱一合

蒔繪小唐櫃一合

古銅大花瓶并香呂

羅漢十六補

一三所佛前御具足 承仕預之本堂分

青磁花瓶香呂一對

磬一。鈴一

青磁花瓶香呂一對

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

古銅香爐一

觀音堂分

青磁花瓶香呂一對 盜人破損畢
仍被移寶藏花瓶香呂了

古銅花瓶一對同香呂二
磬一

一 預承仕細々具足

本尊一補尺迦

同蠟燭臺一

(華人正
以下二行
別筆)
(內白朱
書)

香匙火箸 在白鑲臺

磬一 鈴一 鈴者常住在之

湯瓶大小三 追赤銅大湯瓶
一對添之

(二對朱
書)

銚子提二具

木椀三十具 數二百
七十大小廿八具

茶碗鉢一

(添字及
此內以下
一行朱書
下此行以
書)

建盞二 此內一ヶ破了
追十添之

手洗一

(第十一紙)

以上小寶藏入之

校椅十脚 現在五脚
朱書

(現在五
脚朱書)
(此內以
下一行朱
書)

白蠟燭臺四 五
小大

(五字及
大字朱書)

磬臺三

花籠大小三十五

白蠟水瓶一

古銅香爐一 華人正引出物
貞治四六月六日

內白

建盞一對 在臺
御影折

文臺一 蒔繪

銅手取一

銅大提三 二對

同折敷三十枚

湯盞十八 在臺 追十一具
添除之
此內臺三失畢

圓盤二對

銅蠟燭臺二十四 重四失了
此內現在十九

手香爐一

銅火鉢 在火箸一前

一品經唐櫃一合內 卷經一百廿一卷
疊經四卷

舍利塔二 入塗唐檜

經机二十九前 現在廿四

脇机六前 現在四

手巾臺一

鈍色二具 表襦具足用之

硯箱一合 瓦

柱杖一條

虎繪二補

禮盤三

袈裟臺一

几帳帷九間 表襦具足用之

重一脚

客殿卓一脚

右元應二年六月十三日本目錄雖在之彼目錄之內

前代之時御內之仁等或於御前拜領之或元弘

兵亂之時於土藏紛失之由載之其上近來長壽

(第十二紙)

寺殿入御之時以下度々被進方々之間相副本

目錄以現在之物所注茲也仍目六如件

貞治二年四月 日

法清(花押)

(第十三紙)

同五月十八日校合渡進

崇珊都管訖

同十月廿八日校合渡進

圭照都聞訖

貞治四年乙巳正月廿五日校合渡進

歸法都管訖

法清(花押)

依急病
不及加判
崇珊

圭照(花押)